

「発泡スチロール協会」のこの一年の活動

橋場 正博 (はしば・まさひろ)

発泡スチロール協会
技術環境部

はじめに

発泡スチロール協会は、原料メーカー4社、日本フォームスチレン工業組合(成形加工メーカー125社が加入)で構成された業界団体である。

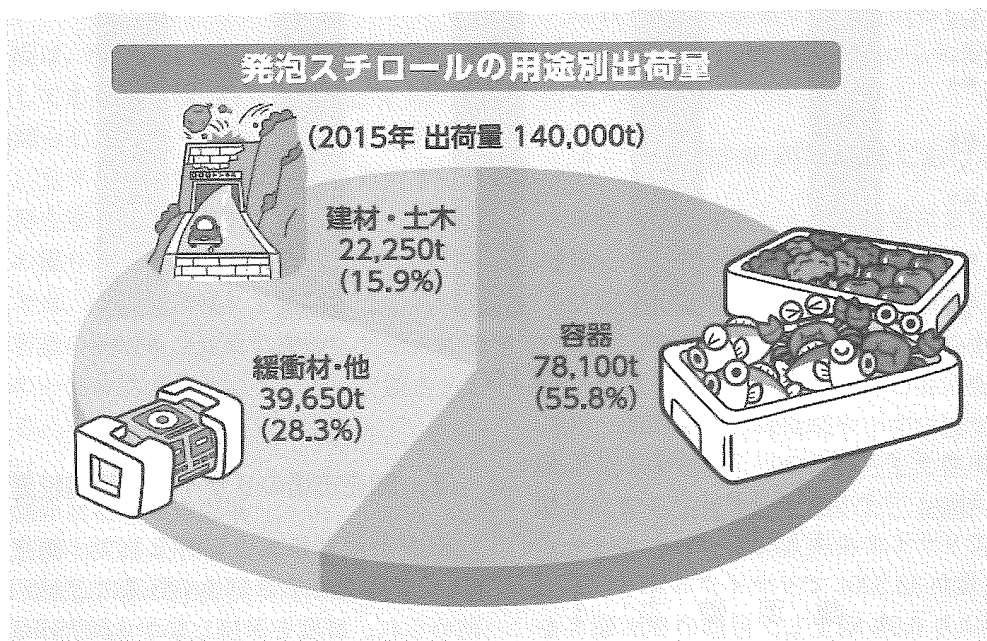
1991年(平成3年)5月20日にビーズ法発泡スチロール(以下EPSと称す)の再資源化を目的に設立され、その後EPSの正しい理解の普及と啓発、再資源化活動の維持・管理、更には近年の省エネ推進政策と関係官庁の行政施策の廃棄物強化に対する提言・支援などが求められるようになり、2010年(平成22年)6月1日に発泡スチロール協会として改組・改称し、EPSを取巻く状況に、柔軟な対応で会員を支援する団体として、現

在に至るものである。

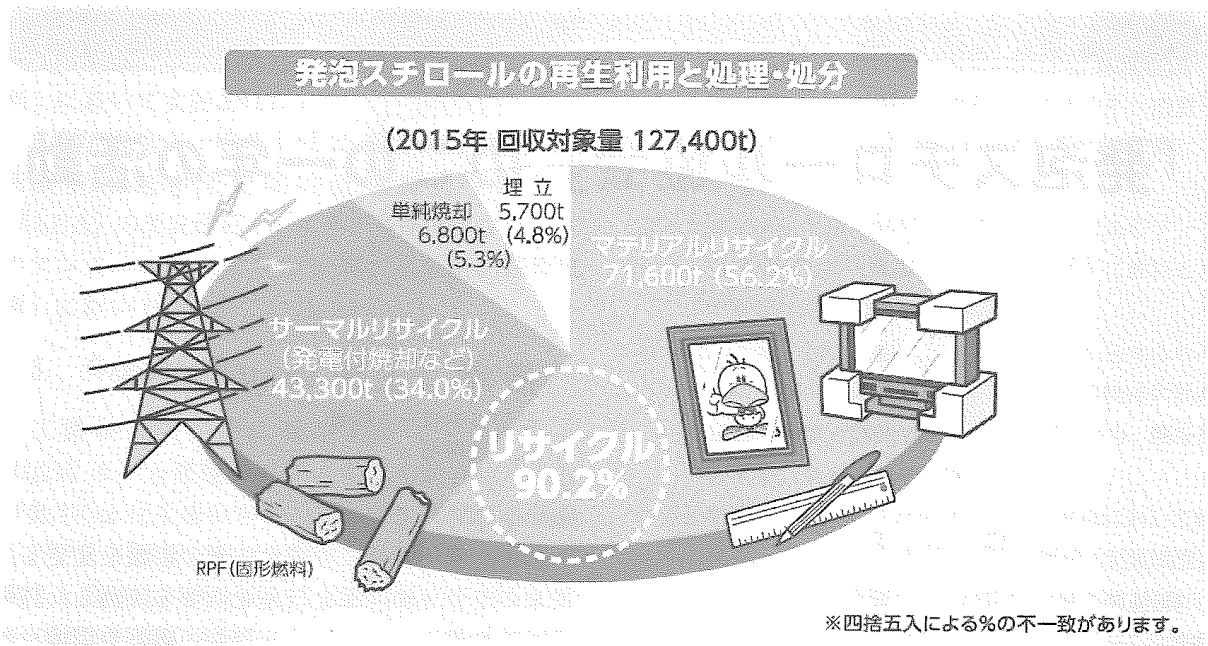
また、本年4月に当協会内部の組織を変更し、従来のリサイクル部と技術企画部を統合した技術環境部を設け、リサイクル技術の構築や環境行政施策の発信基地を担っている。

1. 2015年のEPS用途別出荷状況とリサイクル状況

当協会は、毎年EPSの出荷状況とリサイクル状況について調査を行ない、公表している。2015年度はEPS総出荷量140,000tで、魚箱などの容器が55.8%、家電包装材などの緩衝材が28.3%、建材・土木が15.9%で、土木分野の不振があったものの、前年並みの出荷量だった。

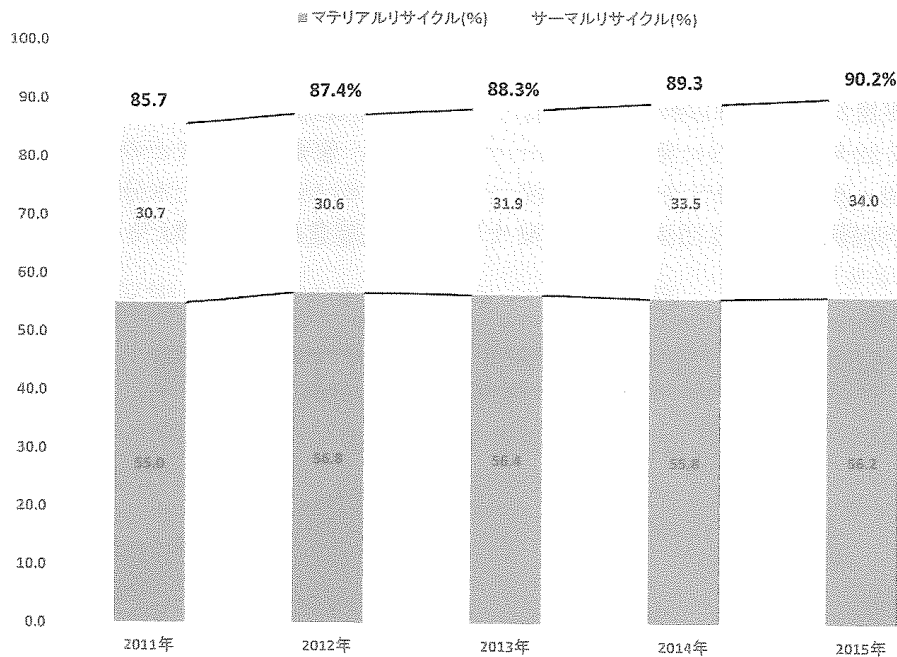


第1図



第2図

過去5年間のリサイクル実績推移



第3図

一方、リサイクルについては回収対象量 127,400t に対し、マテリアルリサイクルされた量が 71,600t でリサイクル率が 55.3%、サーマルリサイクルされた量が 43,300t でリサイクル率が 34.0% であり、前年より 0.9% 向上し、目標の 90% 超えを達成し、90.2% だった。

2. 卸売市場のリサイクル設備設置への支援

EPS が最も集まる場所として、卸売市場がある。全国各地からの鮮魚や野菜などが EPS の箱に詰められ、鮮度を保持しながら卸売市場に運ばれて来る。



写真1 東京都中央卸売市場 築地卸売市場（1）

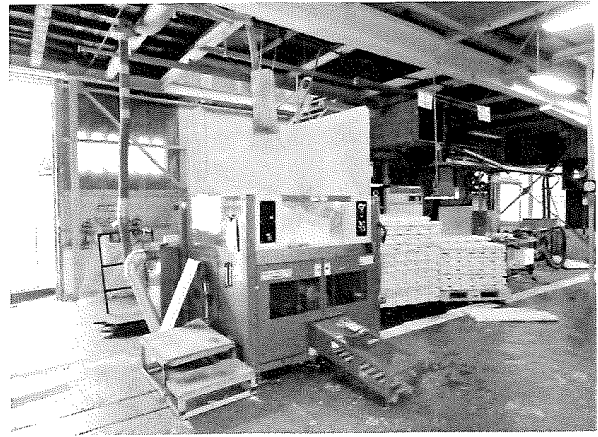


写真3 「エプシー・プラザ」のリサイクル

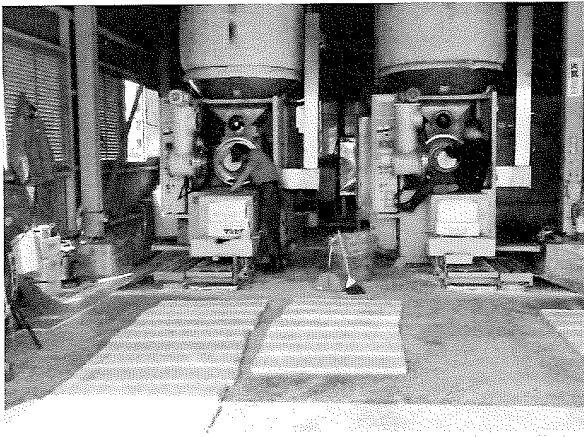


写真2 東京都中央卸売市場 築地卸売市場（2）

売り買いされた後の EPS 容器が卸売市場に大量に残る。

卸売市場は、残された EPS 容器を掻き集め、場内に設置してある減容機（熱や圧縮などで EPS 容器の体積減らし、リサイクルし易くする装置）を使用して、リサイクル原料の塊に変える処理を行ない、資源再生業者に引き渡している。

毎日この繰り返しが行われている。

当協会では、全国を網羅している卸売市場に対して、減容機の新規及び更新に拘わらず購入に際して、その一部を助成金という形で、支援させて頂いている。

昨年度は、

- ・川越総合地方卸売市場
- ・東京都中央卸売市場 板橋市場

の2カ所の卸売市場に助成し、開始から数えて141件の支援を行なっている。

3. 「エプシー・プラザ」のリサイクル活動

当協会の会員企業のほとんどが、工場内に減容機を設置し、自社内で発生した使用済み EPS のリサイクルに取り組んでいる。この会員企業が運営するリサイクル拠点を「エプシー・プラザ」と称する。全国に137カ所の拠点がある。

これらの「エプシー・プラザ」の中で、中間処理業の許可を取得している「エプシー・プラザ」が51カ所あり、家電小売店やホームセンターなど小口排出者のリサイクルを支援させて頂いている。

因みに、2015年の「エプシー・プラザ」の処理量は3,500tだった。

なお、中間処理業の許可を取得していない「エプシー・プラザ」では、外部からの使用済み EPS の受入れは行っていない。

4. 平成28年熊本地震における支援活動

本年4月に発生した熊本地震において、当協会は地元の会員企業からの情報を入手し、被災現地を訪問し、避難所となっていた益城町総合体育館へEPS平板25m/m品を供給したのを皮切りに、経済産業省や被災自治体からの要請を受けて、西原村、南阿蘇村の村役場や小中学校などの避難場所に床の断熱クッション材として使用して頂き、微力ながら支援させて頂いた。勿論、使用済みのものはリサイクルした。

5. 広報活動

EPSは、鮮魚箱や緩衝材といった用途に使用さ



写真4 熊本地震支援 EPS ボード



写真6 静岡市立日本平動物園



写真5 断熱クッション EPS ボード



写真7 秋田県男鹿水族館

れていることはよく知られているが、その優れた特性についてまでは、一般的に知られていない。

そこで、当協会は EPS を正しく理解して頂きたいとの主旨から、全国各地でいろいろな普及活動を行なっている。

ここでは、3 件の活動をご紹介します。

(1)「発泡スチロールの日」と「シロクマキャンペーン」について

当協会では、毎年7月の第3月曜日の「海の日」を「発泡スチロールの日」と制定し(2005年に日本記念日協会より認定された)、全国の会員が各地でPR・啓発活動を行なっている。

また、この日を皮切りに夏休みにかけて、「シロクマキャンペーン」と題して、全国でホッキョクグマを飼育している動物園18カ所において、EPS容器に入れた魚をプレゼントするイベントで、絶滅危惧種に指定された「シロクマの保護」と「ストップ地球温暖化」を訴える活動を行なっている。

「シロクマの保護」と「ストップ地球温暖化」の関係について説明する。

シロクマは北極の寒さに耐えることが出来るように毛が中空状になっている。

一方の EPS も発泡粒子の中に多くの空気が存在し、断熱効果が高い(寒さを防ぐ)製品である。

したがって、EPSの断熱効果が社会生活の中で、多く使われることにより、地球の温暖化を抑止する効果が、北極の温暖化防止に繋がり、シロクマの生命も守ることが出来る。

「シロクマキャンペーン」も今年で9年目を迎え、静岡市立日本平動物園、秋田県男鹿水族館では発泡スチロール大使のハツポウくんによるパフォーマンスショーが繰り広げられ、会場は大盛況のイベントになった。

(2) 環境学習について

EPS製品の優れた特性を体感して貰う主旨で行なっている環境学習には、今年も4月～7月に



写真 8 新潟県胎内市立黒川中学校



写真 9 岐阜県可児市立広陵中学校

かけて、全国から 17 校の中学生、1 校の高校生の都合 110 名の皆さんにご来協頂き、EPS の製造方法、リサイクル方法、更には優れた特性を持つ断熱性、緩衝性について実験を交えながらの体験学習に、今年も盛況に終わることが出来た。

なかでも、煮沸した鍋の中に 1m/m 径の EPS 原料ビーズを投入して、98% の空気を含む 5m/m 径の発泡粒子になる実験や 15m/m の EPS 板を底に敷いた箱の上 1.5m から生卵を落としても割れない実験には皆さん一様に大きな驚きを覚えて帰られたようである。

後日お礼のお手紙を戴き、よく観察されて、問

題意識の高い文面を拝読し、最後には協会職員の健康まで心配してくれる学生さんもおられ、当協会職員にも元気を与えて頂いた多くの学生の皆さんに感謝する次第である。

(3) スチレンピック開催について

EPS 製品作りには、会員企業の多くの従業員の方々が携わっている。

その中でも、製品倉庫で入出庫を担当している方々は、まさに縁の下の力持ちであり、製品の段積みはプロの技が必要である。

そこで、平成 28 年 10 月 22 日、滋賀県栗東市において、発泡スチロール協会・近畿北陸地区委員

第 4 図 広告資料 (1)

EPS stacking championship

Styrenepic

スチレンピック

発泡スチロール容器は、倉庫のスペース効率を上げるために軽量であり頑丈な特性から高く積みあげ、出荷までの間保管されます。そこには、熟練の『技』と絶妙な『バランス』を持ち合わせた積み上げのプロフェッショナルが存在します。発泡スチロール協会に加盟する日本フォームスチレン工業組合では、製造メーカーに従事するプロフェッショナル達の

●安全意識の高揚 ●技術向上 ●倉庫の安全作業の確立

に寄与することを目的に開催されたのが発泡スチロール競技会『スチレンピック』です。

<p style="text-align: center;">【個人戦】積み上げ連続競技</p> <p>積みあげた発泡スチロール容器を決められた位置に倒さずに運ぶスピードを競います。</p>  <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>第一回 スチレンピック 近畿北陸地区大会</p> <p>優勝</p> <p>新協化成工業株式会社 谷口様</p> </div>	<p style="text-align: center;">【団体戦】リレー競技</p> <p>10段[※]に積みあげた発泡スチロール容器をバトンとして5名のチーム対抗にて競います。</p>  <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>第一回 スチレンピック 近畿北陸地区大会</p> <p>優勝</p> <p>新協化成工業株式会社 チーム</p> </div>
---	--

JEPSA

※1段=イカ箱10段の高さ(約1.5kg)

第5図 広告資料(2)

会主催による「第1回スチレンピック」が開催され、“我こそは・・・”の腕自慢が集い、日頃鍛えた“凄ワザ”を競い合い、楽しい大会となった。

なお、この模様はNHKの朝のニュース番組の1つとして放送された。

(4). 今後のイベント紹介

- ①「エコプロ2016」2016年12月8日(木)～11日(土) 東京国際展示場
- ②「JEPSA フォーラム」2017年3月7日(火) 日本橋社会教育会館
- ③「建築・建材展」2017年3月7日(火)～10日(金) 東京国際展示場

お わ り に

最後に、今回ご紹介した活動以外にも、EPSに関する技術的なお問合せやリサイクルに関するお問合せを当協会 H.P. 及び電話にてお受けし、ご

回答させて頂いている。

また、海岸や河川の美化運動にも微力ながら参画している。

更にはEPSリサイクルの国際シンポジウムにも当協会が毎年参加しており、身近な所から遠い世界との交流までと広範囲に渡り、活動を行なっている。

2016年は地球温暖化による異常気象が顕著に現れた1年だった。

我々はもう他人ごとではないことを感じ始めている。

EPSは社会生活の中で、なくてはならない存在になっている。

その優れた特性を更に多くの方々にとって頂き、有効利用して頂くことが当協会の責務と感じ、決意を新たにす所存である。

☆

☆

☆